

「ITアスリート研修」活動結果報告

情報サービス産業協会 人材委員会

人材委員会では、令和6年1月より2か月間、顧客や自社の業務の高度化および課題の探索を牽引する、両利きのエンジニアの育成を目的にした「ITアスリート研修」を開講した。研修内容の概要を紹介し、受講生が学んだことについて報告する。令和6年度においても、本研修を引き続き開講する予定である。

研修概要について

本研修は、顧客や自社に対し自律的な行動や考察ができること、積極的な協働や共創ができることを達成目標としている。本コースの修了時には、受講者からその上司や経営者へ最終成果物である提案書が提示している。上司や経営者による提案書の評価を契機に、新たな課題解決方法についての意見交換の機会が広がることも狙いとした。

カリキュラムは「講義」と「自己学習」で構成している。講義では、組織や業務の実態を把握する調査分析方法としてのエスノグラフィの解説、事例紹介、演習をおこなった。また、両利きの経営を推進するISO56002（Innovation Management System）の概要と国際動向についても解説した。自主学习では、受講生が自身の顧客先や自社内でエスノグラフィを実施し、見出した事実の因果関係を裏付けとし、デジタル技術の応用により業務の深化や課題の探索に関する提案書を作成した。

＝講義カリキュラム＝

週	講義	時	自主学习と[成果物]	時
1	第1回 1/9(火)13:00-17:30講義 デザイン思考、エスノグラフィの解説、事例紹介、グループ演習	4.5	現場観察/聴き取り調査(個人) [収集データの記録]	7
2	第2回 1/25(木)13:00-17:30講義 現場観察/聴き取りの記録に基づく業務や組織の実態分析法の解説、事例紹介、グループ演習	4.5	業務や組織の分析(個人/グループ) [分析結果の説明書]	3.5
3	第3回 2/6(火)13:00-17:30講義 実態に基づく業務の深化・課題探索・価値の参加型設計、事例紹介、グループ演習、講演1(ISO56002)	4.5	課題探索と価値設計(個人/グループ) [課題や価値の説明書]	3.5
4	講義なし 講師とチューターによる成果物ブラッシュアップのサポート、受講生同士のレビューによる参加型設計	-	最終成果物の制作 [課題探索や価値設計の提案書]	8
5	第5回 2/28(水)13:30-17:30講義 成果物へのフィードバック、講演2(両利きの経営)	4.5	最終成果物を組織長へ提出	0
	所要時間合計	18		22

＝募集概要＝

1. 習得できるスキル

- ・ エスノグラフィを応用し顧客や自社の行動や認識を把握するスキル
- ・ 行動や認識から組織や業務の実態を捉え直し考察するスキル
- ・ 業務の高度化や探索について提案し、参加型設計をリードするスキル

2. 募集対象

ITアスリートを目指すデジタル人材



図 ITエンジニアにかかる社会的育成の方向性

3. 講師

メイン講師：平田 貞代 先生（芝浦工業大学・東北大学）

ISO56002に関する講師：（一社）Japan Innovation Network（国際標準化機構日本代表）

チューター：河西 祐介 様（一般社団法人REIONE）

浦野 隆好 様（ティッピングポイント株式会社）

■講義風景



■受講生の理解度

本研修における受講生の学びの深まりを把握するため「ルーブリック^{※1}」を評価方法として活用した。活用した評価項目は1.エスノグラフィ 2.デザイン思考 3.現場からのデータ収集と記録 4.データに基づく探索と推論 5.推論を用いた論理的説明 6.ゲスト講演 17.ゲスト講演 28.提案書の作成と説明 9.問題や価値の発生構造の可視化 10.関係者への提案や交渉の10項目とした。各回終了後、受講生に自己評価をしてもらった。

ITA研修ルーブリック（段階的目標達成）

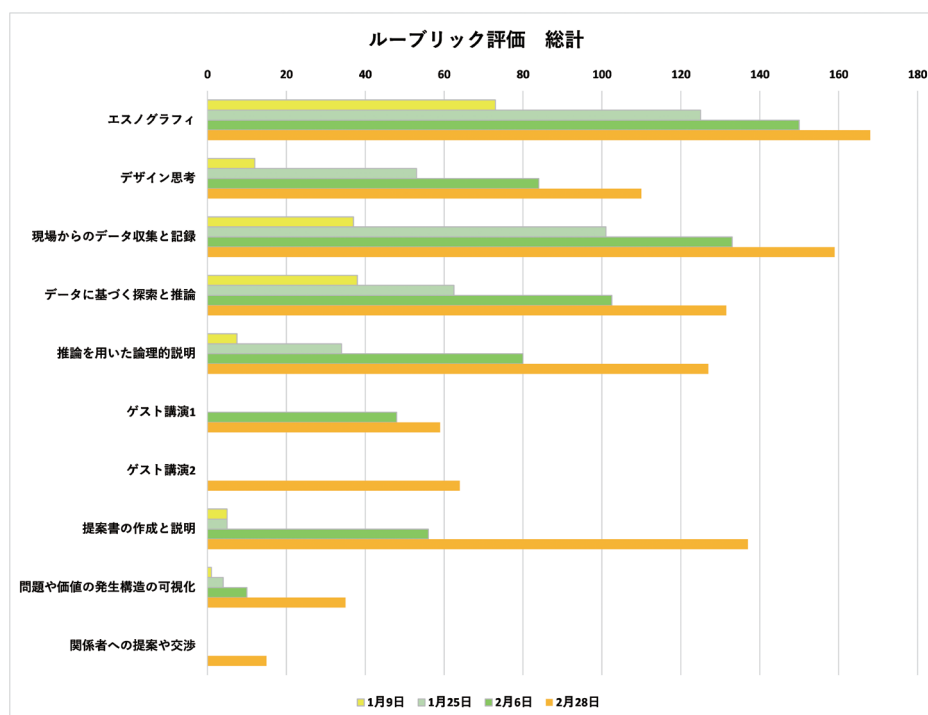
氏名:

		理解できた	説明できた	実践できた	改良できた
1	エスノグラフィ	2	2	2	
2	デザイン思考	2			
3	現場からのデータ収集と記録	2	2	2	
4	データに基づく探索と推論	2	2	2	
5	推論を用いた論理的説明	2	2	2	
6	ゲスト講演	1			
7	ゲスト講演	2			
8	提案書の作成と説明	2	2	2	
9	問題や価値の発生構造の可視化			2	
10	関係者への提案や交渉			1	

記入例 1：半ば達成、2：達成

図 ルーブリックへの回答例（第4回終了後に受講者より提出）

その集計結果は以下の通り。各回終了後、受講生の学びの深まりを振り返りながら、必要に応じて次回の講義にてサポートをおこなった。特に、1.エスノグラフィと3.現場からのデータ収集と記録については、スキルの習得がされていると評価している。



※1 ルーブリックとは、成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表（文部科学省 学習評価に関する資料より）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/133/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/09/15/1396227_14_1.pdf

■受講生アンケート結果

修了後、受講生へのアンケートを実施した。満足度、推奨度は共に高い結果となった。各回の受講者の感想は事務局文責のもと主な意見を掲載する。

満足度（平均）：4.3

5：大満足 4：期待以上 3：期待通り 2：期待以下 1：不満 で評価

他者への推奨度（平均）：4.5

5：大いに勧めたい 4：どちらかと言えば勧めたい 3：どちらでもない

2：どちらかといえば勧めたくない 1：勧めたくない で評価

＝主な感想＝

- ・私は50歳後半なので、若いうちに受けたかったなと思いましたが、この経験をもとに私の立場でしか進められないことも多いとも思いましたので今後も残された社会人人生およびその後の人生の中で何ができるか考えながら継続したいと思います。
- ・「こういう考え方もあるのか…」ということを複数教えていただき、勇気を得られる（わくわくするような？）研修でした。後輩にも薦めたいです。

また、各回の感想は以下の通りである。

（1）第1回コメント

- ・物事を汎化すると問題が明確になると思いました。
- ・エスノグラフィ自体を初めて学んだので、新たな領域を知るという意味でためになる講義だった。
- ・エスノグラフィについて体系的に学べたので大変良かった。
- ・事前準備として現状の課題を出すというものがあつたが、前提条件や知識が少なく非常に悩んだ（課題の規模感など）。
- ・もう少し最初から見本を見せていただけたらイメージが湧きやすかったかと思えます。
- ・設定した課題によると思うが、聞き取りに比べ「観察」をどう実行すればよいか迷った（結局聞き取りしか実施できなかった）。
- ・時間の制約もあると思いますが、KJ法について演習だけでは自身が理解できたか不安があるため、KJ法の実例みたいなのがあると、より理解が深まると思いました。

（2）第2回コメント

- ・テーマのを見つけ方については収集したデータを活かすという意味で参考になった。
- ・他企業の社内課題について議論することはあまり無いため、良い経験となった。
- ・実際にビジネスエスノグラフィで解決策の提案を行った事例を聞いたことでイメージアップでき、とても参考になった。
- ・データ収集をし、記録をすることの重要性について学ぶことができた。

(3) 第3回コメント

- ・仮説を論理的に立てる方法について参考になった。
- ・ISOやJIS規格という観点から、イノベーションの捉え方を知ることができたよい機会でした。
- ・IMSを品質保証以外で意識していなかったため、イノベーションのための枠組みがあることは勉強になった。
- ・ISO56002の知識は有していなかったなので、参考になった。
- ・もっと具体的な事例や困難である生々しい部分の話も聞きたかった。

(4) 第4回コメント

- ・提案書の作成にあたりチューターの方が丁寧にコメントいただけましたので、少しずつ提案書を形にすることができた点は良かった。
- ・チューターの皆さんはレスポンスもよく、必ず励ましていただけたのでかなり案をブラッシュアップできた。
- ・個別チャットだと情報が閉じてしまうが、スレッドだと他者のチューターとやりとりが見ることができ、勉強になった。

(5) 第5回コメント

- ・各人の発表は発表構成、スライドの作り方など勉強になった。
- ・他の方の提案書を見ることで自分の提案書に足りないものに気付くことができ改善方法を知れた。
- ・提案時の議論の演習ができたことは良かった。提案書について参加者同士でレビュー、議論する時間があっても良かった。